

1

(様式・終了－1)

研究開発成果実装支援プログラム

実装活動の名称

「投薬ミス・薬害防止のための、

臨床事例を中核とした

医療従事者向け情報交換・研修システムの実装」

実装支援プロジェクト終了報告書

実装期間 平成20年4月～平成23年3月

実装機関名 NPO法人医薬品ライフタイムマネジメ  
ントセンター

実装責任者

氏名 澤田 康文

公開資料

目次

- I 実装活動の名称と目標、3年間の活動要約・・・3
- II 実装活動の計画と実装活動・・・6
  - (1)全体計画 6
  - (2)各年度の実装活動の具体的内容 6
- III 実装支援活動の成果・・・8
  - (1)目標達成及び実装状況 8
  - (2)実装された成果の今後の自立的継続性 19

(3)実装活動の他地域への普及可能性	19
(4)実装活動の社会的副次成果	19
(5)人材育成	20
(6)実装活動で遭遇した問題とその解決策	20
IV 実装活動の組織体制	・・・20
(1)体制	20
V 理解普及のための活動とその評価	・・・22
(1)展示会への出展等	22
(2)研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等	22
(3)新聞報道、TV 放映、ラジオ報道、雑誌掲載等	28
(4)論文発表	28
(5)WEB サイトによる情報公開	29
(6)口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	29
(7)特許出願	34
(8)その他特記事項	34
VI 結び	・・・34
資料一覧	・・・36
資料 1 ～ 11	・・・37

## I 実装活動の名称と目標、3年間の活動要約

### (1) 実装活動の名称

投薬ミス・薬害防止のための、臨床事例を中核とした医療従事者向け情報交換・研修システムの実装

### (2) 最終目標

当 NPO 法人における実装活動の最終的な目標（実装活動終了後 4 年程度経過した時点）として、医療現場で勤務する医師・歯科医師・薬剤師の累計 10% 以上が当情報交換・研修システムに登録し、登録者からさまざまな臨床事例などの情報が効率的に収集され、また登録者に対して研修事例をはじめとする有用な情報が効率的に配信できる条件が確立されている状況を目指す。具体的には、登録薬剤師数としては 2 万人、登録医師・歯科医師数 4 万人を最終目標とする。次に、財務基盤についても、少なくとも専任の薬剤師 3 名と事務員 1 名を雇用しつつ、システムを円滑に運営できる運転資金を継続的に得られる形とする。これにより、投薬ミスを回避し、よりよい薬物治療を提供するために必要な活かした教育研修事例が持続的に発信でき、ミスの少ない医療が実現されている状態を目指している。最終的には、システムから収集されたインシデント・アクシデント事例に関して、発生事象、原因、回避法などの項目を分類・解析することでライブラリを構築し、そのライブラリを基盤として、投薬ミス・インシデントを事前に予測するシステム、医療従事者のため

の研修教材を創製するシステムを完成させ、運営する。

### (3) 支援期間終了後の目標（到達点）

平成 19 年末現在、薬剤師向けシステム『アイフィス』への登録者数は約 9,000 名、医師向けシステム『アイメディス』への登録者数は約 1,500 名である。3 年間の実装期間中に、登録薬剤師数を倍増させ、上記最終目標の 75% である 15,000 名に、また医師・歯科医師を現状の 4 倍の 6,000 名（上記最終目標の 15%）とする。財政基盤においても、今回の実装支援期間終了時までには、当システムのみで経済的に独立に運営できる体制を目指す。そのためには、薬剤師の有料会員数を現状の 300 名から二倍の 600 名とすること、企業からの継続的支援を得るために法人会員数を 15 社とすること、医師・歯科医師向けの有料会員サービスの開始、健康食品に関する有料情報提供サービスの再開を実装支援期間終了後の具体的な目標とする。会費収入については、当システム（アイフィス・アイメディス部門）と育薬セミナー・認定薬剤師部門に相当する収入を内部的に区分した上で、アイフィス・アイメディス部門としての財政基盤を確立する。上記の目標は、当システムを公的研究費や公的支援を受けずに円滑かつ持続的に運営していくために必要な実装活動のターニングポイントと位置づけられる。また同時に、収集される事例数を倍増し、その安定的な解析体制を確立する。これにより、インシデント予測システムに必要な事例ライブラリのコンテンツとなる事例を蓄積、解析し、そのシステム構築にとりかかる。これはインシデント予測システム、医療従事者のための研修教材創製システムの基盤の完成点として位置づけられる。

### (4) 3 年間の活動実績（要約）

会員獲得については、平成 22 年度末（平成 23 年 3 月 26 日現在）の薬剤師向けシステム『アイフィス』への登録者数の登録者数は 14,162 名（実装期間中 約 5,000 名増）（達成率 94.4%＜目標 15,000 名＞）、医師向けシステム『アイメディス』の登録者数は 5,845 名（実装期間中 約 4,000 名増）（達成率 97.4%＜目標 6,000 名＞）であり、アイフィス、アイメディスともに実装支援終了時における到達点目標をほぼ達成している。また、財政基盤の評価として、平成 22 年度末（平成 23 年 3 月 26 日現在）における薬剤師の有料会員数は累計 632 名であり、到達点目標を達成した。一方、平成 22 年度における法人会員数はのべ 6 社であり、15 社の目標には達しなかった。今後引き続き、会員企業の拡大に努めていく必要があるが、平成 20 年度に実施した財政基盤評価にもとづき法人会費の改定を行っており、実装終了時点での有料会員（薬剤師、法人）からの会費収入は目標に達している。以上から、当システムのみで経済的に独立に運営できる体制を確立するという目標は達成されたと評価される。

各種有料サービスの導入・評価については、平成 20 年度に、健康食品に関する情報提供体制の構築、有料サービスの提供、評価を行い、実装期間中の健康食品情報提供の有料サービス利用者は 183 名であった。なお、医師・歯科医師を対象とした有料情報サービスは検討の結果、当面見送ることとした。平成 21 年度には、新規サービスとして、医療安全

の観点からきわめて重要な「医薬品名の類似度」を計算するための WEB アプリケーションのニーズを探るとともに、そのプロトタイプを WEB 上で提供した。

実装期間中、事例ライブラリの設計と構築を行った。さらに事例ライブラリに格納する臨床事例の収集対象を薬剤師から、医師・歯科医師にも拡大するとともに、配信した事例に対する会員の意見や類似事例の経験の有無などを投票する機能を付置した。これらの取り組みを通じて、より多くの事例が収集可能となった。以上から、インシデント予測システムの基盤となる事例ライブラリがほぼ確立できたと評価できる。

加えて、実装期間中に生まれた新たな取り組みを以下に示す。平成 21 年度以降、実装活動サポーターの養成を目指し、アイフィスを通じて全国の登録薬剤師を対象に在宅スタッフを募集した。実装期間終了時点において、事例解析やセミナー教材作成等にあたる在宅スタッフ 6 名、勤務スタッフ 2 名の体制を確立した。当センターの既存事業を継続実施しつつ、新規事業を立ち上げていくためには、センターの事業を実質的に支援するスタッフの養成は不可欠であることから、外部スタッフや在宅勤務者の事業への参画体制の確立は重要な成果であると考えられる。さらに、平成 22 年度より、育薬セミナー・認定薬剤師部門の新規有料サービスとして、育薬セミナー・BASIC を開講した。平成 22 年度の育薬セミナー・BASIC 受講者は 120 名であった。今後は、新たなチャンネルを使つての受講者募集、更に新規教材の開発に取り組んでいく必要があるだろう。育薬セミナー・BASIC 修了者が育薬セミナー・ADVANCE を継続受講するケースも多く、育薬セミナー・BASIC の開講は当センターの育薬セミナー・認定薬剤師部門の基盤として大きな意義をもたらすものと評価できる。

さいごに、当センターでは大学における新規システムの研究開発への積極的な協力を通して、大学との連携の中で実装を視野に入れた支援を進めている。とりわけ、実装活動が軌道にのった平成 22 年度は、東大薬・医薬品情報学講座におけるイントラアイフィス（薬局内薬剤師間情報交換・研修システム）、登録販売者間情報交換・研修システム、みんくす（一般の方への医薬品情報の提供・収集システム）の研究開発に協力し、連携体制を確立することができた。当センターは、大学の研究成果活用 NPO 法人と位置づけられ、これらのシステムも実装されることが期待される。

## II 実装活動の計画と実装活動

### (1) 全体計画

項目

平成 20 年度

平成 21 年度

平成 22 年度

会員獲得のための

広報活動

広報活動方針の評価と修正

◆(10 月)

◆(10 月)

◆(10 月)

◆(10 月)

◆(10 月)

◆(10 月)

費用分析・財務評価

健康食品情報提供

システムの構築・評価

新規有料サービスの検討（医師、歯科医師を対象としたサービスを含む）

新規有料サービス導入の構築と評価

ニーズが認められた場合のみ

事例ライブラリの構造決定

事例データの蓄積と分析

インシデント予測システムの概要設計

実装活動サポーターの養成

新規薬剤師研修セミナーの主催

新規システムの開発協力（大学連携）、活用

まとめ

(2)各年度の実装活動の具体的内容

1) 会員獲得

実装開始時点で目指した目標（到達点）

平成 19 年末現在、薬剤師向けシステム『アイフィス』への登録者数は約 9,000 名、医師・薬剤師向けシステム『アイメディス』への登録者数は約 1,500 名である。3 年間の実装期間中に、登録薬剤師数を倍増させ、上記最終目標の 75% である 15,000 名に、また医師・歯科医師を現状の 4 倍の 6,000 名（最終目標の 15%）とする。

②複数の有料サービスの検討をおこなったため、期間延長。

①健康食品情報提供サービスを有料サービスとして検証したため前倒しして実施。

③実装期間全体を通して有料サービス導入の評価を実施したため。

④これまでに収集された事例数が多く、パターンも多様であり、事例ライブラリ構造決定に時間を要したため

⑤事例ライブラリ構造決定のスケジュール変更に伴う期間変更

⑥実装期間中に生まれた新たな目標

⑦実装期間中に生まれた新たな目標

⑧実装期間中に生まれた新たな目標

## 2) 財政基盤の評価と確立

実装支援期間終了時まで、当システムのみで経済的に独立に運営できる体制を目指す。そのために、薬剤師の有料会員数を現状の 300 名から二倍の 600 名とすること、企業からの継続的支援を得るために法人会員数を 15 社とすることを目標とする。また、各種有料サービスの導入を検討、評価する (3)参照)。

## 3) 各種有料サービスの導入

医師・歯科医師向けの有料会員サービスや健康食品に関する有料情報提供サービスなど、各種新規有料サービス導入の検討、評価を行う。

## 4) 臨床事例ライブラリの構築

アイフィス、アイメディスを通じて収集される事例数を増加させるとともに、事例解析の体制を確立する。これにより、インシデント予測システムに必要な事例ライブラリのコンテンツとなる事例を蓄積、解析し、そのシステム構築に着手する。これはインシデント予測システム、医療従事者のための研修教材の創製システムの基盤の完成点として位置づけられる。

## 1) 会員獲得

平成 20 年度の実装活動の具体的内容

平成 20 年度末において、薬剤師間情報交換・研修システム (アイフィス) の登録薬剤師数を 10,000 名、医師・歯科医師を対象としたシステム (アイメディス) の登録医師・歯科医師数を 2,500 名にまで増加させる。会員獲得のための広報活動を積極的に実施し、その内容を評価する。

## 2) 財政基盤の評価と確立

平成 20 年度末において、有料会員を 400 名にまで増加させる。運用にかかる費用の調査、積み上げにより得られた、予算計画ための基礎的情報を分析し、効率的な運営体制をさぐる。

## 3) 各種有料サービスの導入

新規情報サービスとして健康食品情報提供サービスの提供体制を確立する。有料サービスとして提供し、その継続性を評価する。

## 4) 臨床事例ライブラリの構築と運用

事例の収集件数を年間 150 事例に増やし、その解析とライブラリ化にとりかかる。すなわち、事例解析プロセスが概ね確立され、ライブラリの基本的構造が固まり、事例データを構造化して蓄積していく体制を整える。

## 1) 会員獲得

平成 21 年度の実装活動の具体的内容

平成 21 年度末において、薬剤師間情報交換・研修システム (アイフィス) の登録薬剤師数を 12,500 名、医師・歯科医師を対象としたシステム (アイメディス) の登録医師・歯

科医師数を 6,000 名（実装期間終了時点の目標と同一）にまで増加させる。会員獲得のための広報活動を積極的に実施し、その内容を評価する。

## 2) 財政基盤の評価と確立

平成 21 年度末において、アイフィスの有料薬剤師会員を 600 名（実装期間終了時点の目標と同一）にする。特に、育薬セミナー・認定薬剤師部門との連携を強化し、業界誌への宣伝広告、地域薬剤師会に対する案内状・パンフレットの発送などにより有料会員の獲得を図る。また、その費用対効果を評価し、効率的な会員獲得のための手法を探ることで、PDCA サイクルを間断なく稼働させる。

## 3) 各種有料サービスの導入

平成 20 年度に確立した健康食品情報提供サービスの一部を継続して稼働させる。医師・歯科医師を対象とした有料情報サービス会員のシステムを構築するための前段階として、有料情報サービスの可能性について検討を行う。新規有料・無料サービスとして、医薬品名の類似度を計算するための WEB アプリケーションのニーズを探るとともに、そのプロトタイプを WEB 上に提供する。

## 4) 臨床事例ライブラリの構築

研修用事例の素材となる臨床事例の収集対象を現在の薬剤師から、医師・歯科医師にも拡大するとともに、配信した事例に対する会員の意見や類似事例の経験の有無などを投票する機能を付置し、臨床事例の投稿を促進する。インシデント予測システム、医療従事者のための研修教材の創製システムに必要な事例ライブラリの確立と、それを薬物治療の適正化に対して活用するための方法論を探る。

## 5) 実装活動サポーターの養成

外部スタッフ、在宅勤務者などの事業への参画（事例解析等）の方法論とその有効性に関する feasibility を探り、その可能性を評価する。

### 1) 会員獲得

平成 22 年度の実装活動の具体的内容

平成 22 年度末において、薬剤師間情報交換・研修システム（アイフィス）の登録薬剤師数を 15,000 名（実装期間終了時点の目標と同一）、医師・歯科医師を対象としたシステム（アイメディス）の登録医師・歯科医師数を 6,000 名（実装期間終了時点の目標と同一）にまで増加させる。会員獲得のための広報活動を積極的に実施し、その内容を評価する。

## 2) 財政基盤の評価と確立

平成 22 年度末において、アイフィスの有料薬剤師会員を 600 名（実装期間終了時点の目標と同一）にする。特に、育薬セミナー・認定薬剤師部門との連携を強化し、業界誌、ウェブサイトへの宣伝広告などにより有料会員の獲得を図る。運用にかかる費用の調査、積み上げにより得られた、予算計画ための基礎的情報を分析し、効率的な運営体制をさぐる。

## 3) 各種有料サービスの導入

医師・歯科医師を対象とした有料情報サービス会員のシステムを構築するための前段階として、有料情報サービスの可能性について、引き続き検討を行う。

東京大学大学院薬学系研究科医薬品情報学講座と連携して、医薬品名の類似度を計算するための WEB アプリケーションの改良を行う。

健康食品情報提供サービスの一部を継続して稼働させる。

#### 4) 臨床事例ライブラリの構築

アイフィス・アイメディスの会員からの研修用事例の素材となる臨床事例の収集を促進させるとともに、配信した事例に対する会員の意見や類似事例の経験の有無などを投票する機能の効果を評価する。引き続き、インシデント予測システム、医療従事者のための研修教材の創製システムに必要な事例ライブラリの確立と、それを薬物治療の適正化に対して活用するための方法論を探る。

#### 5) 実装活動サポーターの養成

外部スタッフ、在宅勤務者などの事業への参画（事例解析等）の方法論とその有効性に関する feasibility を探り、その可能性を評価する。

#### 6) 新規薬剤師研修セミナーの主催

育薬セミナー・認定薬剤師部門は、東京大学が実施していた文部科学省「平成19年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（大学・NPO連携による子育て等での離退職薬剤師のための職場復帰・再教育プログラム）」の委託事業に協力してきた。本プログラムを委託事業終了（平成21年度末）後に継承し、育薬セミナー・認定薬剤師部門の新規有料サービスとして継続運営する。平成20年4月に研修セミナー（1回90分、全12回のeラーニング+スクーリング併用型研修セミナー）開講以後現在までのべ受講者は686名である。さらに、継承する研修セミナーを基礎編（育薬セミナー・BASIC）と位置づけ、現在当センターで開講している応用編の育薬セミナー・ADVANCEへの継続学習を促すシステム作りについても検討する。

#### 7) 新規システムの開発協力（大学連携）とその活用

①東京大学大学院薬学系研究科医薬品情報学講座（東大薬・医薬品情報学講座）が東邦薬品株式会社・トモニティ株式会社（薬局チェーン企業）との共同研究に基づいて研究開発中のチェーン薬局内での事例収集・共有システムとの連携体制を確立する。すなわち、チェーン薬局内システムにおいて得られた研修素材を一定期間経過後、アイフィス・アイメディスのシステムにおいて公開・活用する。

②東大薬・医薬品情報学講座が湧永製薬株式会社との共同研究に基づいて研究開発中の登録販売者への継続した教育を目的とした登録販売者間情報交換・研修システム（アイレドシス）との連携体制を確立する（登録販売者は一般用医薬品（OTC 医薬品）のうち第2類および第3類医薬品の販売に携わる者）。すなわち、これまでアイフィス・アイメディスに蓄積されてきた OTC 医薬品にまつわる臨床事例をアイレドシスに提供するとともに、相互連携の体制を確立する。

③東大薬・医薬品情報学講座が一般の方への医薬品情報の提供・収集を目的として研究開発中のシステム（名称：みんくす）との連携体制を確立する。すなわち、これまでアイフィス・アイメディスに蓄積されてきた患者の服薬ケア等につわる臨床事例をみんくすに提供するとともに、相互連携の体制を確立する。

### Ⅲ 実装支援活動の成果

#### (1) 目標達成及び実装状況

##### 1) 会員獲得

【支援期間終了後の目標（到達点）】

【実装状況】

薬剤師向けシステム（アイフィス）の登録者数を約 9,000 名（平成 19 年度末）から 15,000 名に、医師・薬剤師向けシステム（アイメディス）の登録者数を約 1,500 名（平成 19 年度末）から 6,000 名にまで増やす。

平成 23 年 3 月 26 日現在のアイフィスの登録者数は 14,162 名（実装期間中 約 5,000 名増）、アイメディスの登録者数は 5,845 名（実装期間中 約 4,000 名増）であり、ほぼ目標が達成された。

平成 20 年度は、登録薬剤師に関しては平成 19 年度末の 9,000 名から 10,000 名への 1,000 名増を目標として、業界誌の記事中での紹介や、各地の薬剤師会への宣伝活動を行った（＜V 理解普及のための活動とその評価＞の項参照）。その結果、登録薬剤師数は 10,760 名と、目標以上の増加を得た（目標達成率約 175%）。一方、医師に対しては、日経メディカルオンラインとの協業を会員獲得の柱に据え、日経メディカルオンラインが配信するメールマガジン中に、当法人の事例記事の一部を提供するとともに、当法人への会員登録を行うことで全文が閲覧できることとした。その結果、特に医師の興味をひく事例を重点的に配信することにより、多数の会員を獲得することができた。他にも、医師に対する講演会等での宣伝活動を行うなどした結果（＜V 理解普及のための活動とその評価＞の項参照）、当初目標（平成 19 年度末の 1,500 名から 2,500 名への 1,000 名獲得）と比較して、4,000 名増（目標達成率 400%）と、大幅な成果を上げることができた。

平成 21 年度も、新規会員の獲得と既存会員の継続性の確保に注力した。登録薬剤師に関しては、平成 20 年度末の 10,760 名から 2,000 名以上の会員増を達成した。平成 20 年度の 1,700 名の会員増をさらに上回っており、目標としていた会員数 12,500 名も達成できた。医師の会員については、申請時の目標（平成 21 年度）は 4,000 名であったが、平成 20 年度来、日経メディカルオンラインとのアライアンスにより会員数が順調に増加していることから本年度頭に目標を上方修正（4,000 名→6,000 名）した。この目標にはやや達しなかったものの、会員数は約 5,500 名と堅調であった。なお、平成 21 年 10 月に開催された日本薬剤師会学術大会（参加者 1 万名）では DLM センターの広報ブースを設置し、アイフィスや研修セミナーの広報活動を行った（＜V 理解普及のための活動とその評価＞の項参照）。

実装支援終了時の平成 22 年度末（3 月 26 日現在）には、アイフィスの登録薬剤師数は 14,162 名（実装期間中 約 5,000 名増）（達成率 94.4%＜目標 15,000 名＞）、アイメディスの登録医師数は 5,845 名（実装期間中 約 4,000 名増）（達成率 97.4%＜目標 6,000 名＞）となり、ほぼ目標が達成された。

## 2) 財政基盤の評価と確立

### 【支援期間終了後の目標（到達点）】

#### 【実装状況】

薬剤師の有料会員数を現状の 300 名から 2 倍の 600 名、法人会員数を 15 社とし、当システムのみで経済的に独立に運営できる体制を確立する。

平成 22 年度末時点における薬剤師の有料会員数は 632 名（育薬セミナー・BASIC 平成 22 年度申込者も含む）であり、目標を達成した。また、平成 22 年度における法人会員数はのべ 6 社であり、15 社の目標には達しなかった。今後引き続き、会員企業の拡大に努めていく必要がある。なお、平成 20 年度における、財政基盤評価にもとづき法人会費の改定（値上げ）を行っており、実装終了時点での有料会員（薬剤師、法人）からの会費収入は、目標額を達成しており、当システムのみで経済的に独立に運営できる体制を確立するという目標を達成した。

初年度（平成 20 年度）の有料会員数は 369 名（法人会員 58 名を含む）であった。平成 20 年度の目標人数 400 名には及ばなかったものの、着実な会員増を達成することができた。平成 20 年度には、薬剤師、医師・歯科医師の双方に対してメールマガジン及び Web サイトを通じた研修用事例の提供を毎週欠かさず継続する中で、実際の運用にかかる費用の調査、積み上げを行い、今後の予算計画のための基礎的情報を得た。その結果にもとづき、法人会員の会費（一口）の 200,000 円から 500,000 円への変更を行った（その時点での加入者に対しては 2 年間現行価格を据え置く）。

#### 実装状況の詳細

平成 21 年度の有料薬剤師会員は 539 名（法人会員（6 社）：計 65 名を含む）となった。平成 21 年度目標の 600 名（平成 21 年度頭に目標を上方修正 500 名→600 名）には達していないものの、昨年度の 386 名から着実に会員数を増加させることができた。平成 21 年度の有料薬剤師会員には、平成 21 年度の 8 月より新たにスタートさせた有料薬剤師会員サービス（プレミアム C）の入会者 81 名が含まれる。平成 22 年度以降、これらの会員のさらなる知識・意識の向上をサポートし、研修セミナーの定期受講（プレミアム A 会員）へのステップアップを促す方策を構築していくこととした。平成 21 年度の主な広報活動として、有料薬剤師会員サービス（プレミアム A）として展開している育薬セミナー・ADVANCE のパンフレット（資料 1）の作成と配布を実施した。東京大学と連携して実施してきた育薬セミナー・BASIC（平成 21 年度までは文部科学省の委託事業として実施）の修了者、東京都薬剤師会を始めとする全国地域薬剤師会会員に広く配布した。また、平成 21 年 10 月に開催された日本薬剤師会学術大会（参加者 1 万名）では DLM センター

の広報ブースを設置し、アイフィスや研修セミナーの広報活動を行った(資料 2)。さらに、育薬セミナー・BASIC で実施しているスクーリングでは、ADVANCE コースのテキストのバックナンバーやセミナー映像の放映と講師からの直接のセミナー内容の紹介を行った。これらの取り組みの成果もあり、BASIC コースの修了後、プレミアム A 会員へ移行する受講者数は堅調な伸びを示している。会場型のセミナーでは、平成 21 年度 3 月に次年度からの新規受講希望者を対象としたトライアル受講も実施した(平成 22 年度のトライアル受講は東日本大震災のため中止)。

平成 22 年度からは、日経 BP 社が運営している日経 DI オンラインとのアライアンスにより、日経 DI オンラインにおける育薬セミナーの WEB 広告(セミナーの紹介動画を含む)を開始した(資料 3)。更に実装責任者の澤田は、全国の薬剤師会、病院薬剤師会における医療安全検討会で特別講演を行い、アイフィスと育薬セミナーへの会員登録を啓発してきた(<V 理解普及のための活動とその評価>の口頭発表、招待講演を参照)。

これらの取り組みの結果、平成 22 年度末時点における薬剤師の有料会員数は 632 名(育薬セミナー・BASIC 平成 22 年度申込者も含む)であり、目標を達成した。また、平成 22 年度における法人会員数はのべ 6 社であり、15 社の目標には達しなかった。今後引き続き、会員企業の拡大に努めていく必要がある。法人会員拡大に向けた広報活動の一環として、実装責任者の澤田は、平成 23 年 1 月には製薬企業 50 社の MR を対象とした教育研修講習会での特別講演を行った(<V 理解普及のための活動とその評価>の項参照)。なお、平成 20 年度における、財政基盤評価にもとづき法人会費の改定(値上げ)を行っており、実装終了時点での有料会員(薬剤師、法人)からの会費収入は、目標額を達成している。すなわち、実装活動開始時点での法人会員の会費ベースでの目標は 3,000,000 円(1 口 200,000 円×15 社)であるのに対して、現行では 1 口 500,000 円×6 社=3,000,000 円という状況にある。今後安定的な事業収入の確保に努めていくことは不可欠であるが、実装支援終了時点での目標であった、当システムのみで経済的に独立に運営できる体制を確立するという目標は達成できたと評価される。

### 3) 各種有料サービスの導入

#### 【支援期間終了後の目標(到達点)】

#### 【実装状況】

医師・歯科医師向けの有料会員サービスや、健康食品に関する有料情報提供サービス等、新規有料サービスの導入の検討、評価を行う。

平成 20 年度は、健康食品に関する情報提供体制の構築、有料サービスの提供、評価を行った。次年度以降も健康食品情報提供サービスの一部を継続して稼働させた。実装期間中の健康食品情報提供の有料サービス利用者は 183 名であった。なお、医師・歯科医師を対象とした有料情報サービスは検討の結果、当面見送ることとした。平成 21 年度には、新規サービスとして、医薬品名の類似度を計算するための WEB アプリケーションのニーズを探るとともに、そのプロトタイプを WEB 上で提供した。

## <健食インフォ・コーナーの開設と評価>

### 実装状況の詳細

平成 20 年度の目標のひとつとして、医療従事者のニーズに応じて、有償での医薬品・健康情報を提供するシステムとして、健康食品情報提供システムを開始し、その会員数や反響、有用性の評価などを行うことを挙げた。そこで、WEB サイト上に「健食インフォ・コーナー」を開設した（資料 4）。まず、規格化した情報項目（名称、有用性、有害作用、医薬品・食品との相互作用等）に沿って健康食品のモノグラフを作成した。続いて、症例や臨床試験の文献報告を元に、Q&A 形式の医薬品－健康食品相互作用の研修用事例を創作した。これらのコンテンツのうち、要点はアイフィスとアイメディスの登録会員に無料で提供した。また、詳細情報については有償（年会費 3,780 円）で提供した。平成 21 年 3 月末までに、計 15 件のモノグラフ、計 36 件の Q&A 事例を公開した。さらに、投稿された健康食品の安全性・有用性情報のうち、調査・解析を加えた 7 事例を全登録者にフィードバックした。登録者対象のアンケートの結果、回答者の約 8 割から定期的な情報提供が業務に役立つとの評価を得た。特に、相互作用・安全性に関する情報提供に対する評価が高く、本コーナーの利用により、健康食品の相互作用・安全性に対する意識が高まったとの意見も寄せられた。本コーナーの稼働により、医療従事者の情報ニーズを考慮した教育的な健康食品情報の定期的な提供と、医療従事者が経験した健康食品の安全性・有用性情報の収集・共有が可能となった。次年度以降も健康食品情報提供サービスの一部を継続して稼働させた。実装期間中の健康食品情報提供の有料サービス利用者は 183 名であった。

### <「医薬品名類似度」計算 WEB アプリケーションの公開>

平成 21 年 9 月には、新規サービスとして、医薬品名の類似度を計算するための WEB アプリケーションを公開し（<http://simname.dlmc.jp/med/b/top/>、現在休止中）（資料 5）、システムの feasibility を検証した。

アイフィス・アイメディスの会員に向けて広報を行い、その操作性並びにシステムのニーズや改善点の意見を収集した。その結果、現場からは医療現場における医薬品の取り違えの未然回避やミスの要因解析において活用可能なシステムとして好意的な評価を得た。この取り組みについては、日本病院薬剤師会からの寄稿依頼を受け、平成 21 年度 6 月に発刊の日本病院薬剤師会雑誌の総説において一部紹介した（<V 理解普及のための活動とその評価>参照）。現在、本システムの運用と並行して、システムの研究開発を行っている東京大学大学院薬学系研究科においてさらなるアルゴリズムの改良と現場のニーズを取り入れたシステムへのバージョンアップを進めている。将来的には、医療従事者（個人）に対する医薬品の取り違え軽減のサポートサービス（無償）に加えて、電子カルテやレセコンへのシステム搭載や製薬企業への新薬名称決定時のサポートサービス等（有償）として展開していくことを計画している。

### 4) 臨床事例ライブラリの構築

【支援期間終了後の目標（到達点）】

## 【実装状況】

アイフィス、アイメディスを通じて収集される事例数を増加させるとともに、事例解析の体制を確立する。これにより、インシデント予測システムに必要な事例ライブラリのコンテンツとなる事例を蓄積、解析し、そのシステム構築に着手する。インシデント予測システムの基盤の完成を目標とする。

事例の収集対象を薬剤師から、医師・歯科医師にも拡大するとともに、配信した事例に対する会員の意見や類似事例の経験の有無などを投票する機能を付置する等の取り組みを通じて、臨床事例の投稿が促進された。また、インシデント予測システム、研修教材の創製システムに必要な事例ライブラリの設計と構築を行った。以上から、これらのシステムの基盤が確立できたと評価できる。

### <事例投稿促進>

#### 実装状況の詳細

平成 20 年度に、登録者による自発的投稿を促すためのインセンティブについて検討した。その結果、事例の投稿がなかなか進まない理由として、アンケート調査などの結果から、事例の投稿に手間がかかることや、インセンティブが十分でないことなどがあげられた。そこで、まずは投稿などに対してポイントを付与するシステムについて検討を行った。しかしながら、システムの改良に相当の時間と経費がかかること、登録者が獲得したポイントに対して何を贈呈すべきかなど、さまざまな問題点が挙げられたため、このシステムについては開発保留（継続審議）とした。一方で、アンケートの結果から、事例を閲覧しても、なかなか投稿に結びつかないこと、投稿フォームの内容が濃く、二の足を踏む会員が多いことなども判明した。そこで、「健食インフォ・コーナー」の新設に引き続いて、個々の事例に対する会員の意見、コメントを収集するコーナーを設け、事例を収集するきっかけとした（資料 6）。開設以後、複数の意見、感想、コメントが寄せられており、事例収集促進に有用であると考えられた。順次、その他のコーナーにおいても同機能を追加していくこととした。平成 21 年度、アイフィス及びアイフィスのサイトにおいて、昨年度から引き続き、配信した事例に対する会員の意見や類似事例の経験の有無などを投票する機能を付置し、臨床事例の投稿の促進を図った。また、アイフィスのサイト内において、断続的に入会してくる新規会員が本サイトの趣旨を理解し、積極的に参加できるようにアイフィスの趣旨と活用法の案内ページを 12 月上旬に設置した（資料 7）。設置による効果の検証は難しいが、設置前後の投稿事例数を月当たりにして比較すると 1.6 倍の投稿数の増加が見られた。

### <医師・歯科医師からの事例・情報収集>

平成 21 年度、アイメディス（医師・歯科医師サイト）においても、アイフィス（薬剤師サイト）と同様に、配信した事例に対する会員の意見や類似事例の経験の有無などを投票する機能を介して、医療現場での情報を収集した。また、会員の増加にともない、薬物相互作用のコンサルティングコーナーへの相談事例も寄せられており、薬学的知識に基づく

情報提供のニーズの高さが伺われる。さらに、これまでのアイフィスからアイメディスへの情報提供に加えて、今年度はアイメディス（医師）に寄せられた事例に基づき作成した定期配信事例を、アイフィス（薬剤師）においても再加工して配信するケースも見られるようになってきた。このようにアイフィスとアイメディスの相互連携は、医療現場の医薬品適正使用の推進の観点からも有意義である。

＜インシデント予測システム、研修教材の創製システムに必要な事例ライブラリの基盤の確立＞

年度当初の目的として、インシデント予測システム、研修教材の創製システムに必要な事例ライブラリの基盤を確立するための前段階として、収集した事例を対象に、ライブラリ化のための解析プロセスを確立し、適用することがあげられていた。そこで、服薬に関するヒヤリハット事例を対象に、事象の整理、問題点の抽出、背後要因の探索の規格化を行った。分析した事例は、データベースアプリケーション（File Maker Pro 7）を用いてパーソナルコンピュータ上にデータベース化した。具体的には、「事象の整理」として関係者の認知・判断・行動を時系列で書き出した。続く「問題点の抽出」では、先に書き出した事項から問題のあるものを抽出した。最後に「背後要因の探索」として、問題点惹起の要因と考えられる事柄を列挙し、要因分類を行った。要因分類は、階層構造として、「薬などによる要因」、「患者などによる要因」、「その他の要因」という大分類項目の下に、「製剤特性・その他の薬剤特性」などの細分類項目を設けた。これまでに本手法を用いて 124 事例の分析を適切に行い、規格化してデータベースに格納することができた。分析の結果、現時点でも医薬品の製剤・包装の改善によりトラブル減少が期待される事例が 3 割程度存在することなどが判明した。豊富な掲載事例からより効果的に学べる環境を提供できるように、平成 21 年度以降も引き続き、システム内の事例のライブラリ化を実施した。現在、ライブラリ機能搭載のためのシステムデータベースの大幅改変が進行中である。

以下、実装期間中に生まれた新たな目標とそれらの実装状況についてまとめた。

##### 5) 実装活動サポーターの養成

【支援期間終了後の目標（到達点）】

【実装状況】

当センターの既存事業を継続実施しつつ、平成 21 年度以降、アイフィスを通じて全新規事業を立ち上げていくためには、センターの事業を実質的に支援するスタッフの養成は不可欠である。そこで、実装活動を実質的に支援するスタッフを、在宅スタッフの積極的採用等を通じて 5 名養成することを目指す。

国の登録薬剤師を対象に在宅スタッフを募集した。実装期間終了時点において、事例解析やセミナー教材作成等にあたる在宅スタッフ 6 名、勤務スタッフ 2 名の体制を確立した。平成 21 年度に、アイフィス・アイメディスの定期配信（毎週）事例の解析や研修セミナーのコンテンツ作成に積極的に外部スタッフや在宅勤務者に参画してもらう体制を構築した。アイフィスを通じて全国の登録薬剤師を対象に在宅スタッフを募集した。現場薬剤師、

あるいは育児中の薬剤師経験者又は薬学系大学院修了者がメンバーとなり、東京大学のボランティアスタッフの指導のもと、アイフィス・アイメディスのコンテンツ作成にあたった。実装期間終了時点において、事例解析やセミナー教材作成等にあたる在宅スタッフ 6 名、勤務スタッフ 2 名の体制を確立した。当センターの既存事業を継続実施しつつ、新規事業を立ち上げていくためには、センターの事業を実質的に支援するスタッフの養成は不可欠であることから、本年度の外部スタッフや在宅勤務者の事業への参画体制の確立は重要な成果であると考えられる。

実装状況の詳細

#### 6) 新規薬剤師研修セミナーの主催（育薬セミナー・認定薬剤師部門の新規有料サービス）

【支援期間終了後の目標（到達点）】

【実装状況】

平成 22 年度より、育薬セミナー・認定薬剤師部門の新規有料サービスとして育薬セミナー・BASIC を開講する。さらに、本研修セミナーを基礎編と位置づけ、既に当センターで開講している応用編の育薬セミナー・ADVANCE への継続学習を促すシステム作りについても検討する。

平成 22 年度の新規育薬セミナー・BASIC 受講者は 120 名であった。育薬セミナー・BASIC 修了者が育薬セミナー・ADVANCE を継続受講するケースは少なくないことから、育薬セミナー・BASIC の開講は育薬セミナー・認定薬剤師部門の基盤として大きな意義をもつと考えられる。

平成 22 年度より、育薬セミナー・認定薬剤師部門の新規有料サービスとして育薬セミナー・BASIC を開講した。平成 22 年度の新規受講者は 120 名であった。本セミナー開講時（平成 20 年度：当時は東京大学との共催）からのべ受講者数は 800 名を超えた。今後は、新たなチャンネルを使っての受講者募集に取り組んでいく必要があるだろう。育薬セミナー・BASIC 修了者が育薬セミナー・ADVANCE を継続受講するケースや ADVANCE の受講者が知識の確認のため、BASIC を並行して受講するケースは少なくないことから、育薬セミナー・BASIC の開講は当センターの育薬セミナー・認定薬剤師部門の基盤として大きな意義もたらすものと評価できる。

#### 7) 新規システムの開発協力（大学連携）とその活用

【支援期間終了後の目標（到達点）】

【実装状況】

東大薬・医薬品情報学講座における以下の研究開発に協力し、連携体制を確立する。・チェーン薬局内での事例収集・共有システム（イントラアイフィス）

・登録販売者間情報交換・研修システム

・みんくす（一般の方への医薬品情報の提供・収集システム）

平成 22 年度、イントラアイフィス、登録販売者間情報交換・研修システム（アイレドシス）、みんくす（一般の方への医薬品情報の提供・収集システム）との連携体制を確立でき

た。すなわち、イントラアイフィスにおいて集積された臨床事例をアイフィスで活用する体制が整った。また、アイレドシス、みんくすにおける情報提供素材は、事例ライブラリから抽出する連携体制を確立することができた。

平成 22 年度、イントラアイフィス（資料 8）、登録販売者間情報交換・研修システム（アイレドシス）（資料 9）、みんくす（一般の方への医薬品情報の提供・収集システム）（資料 10）との連携体制を確立できた。同一チェーン薬局内で事例を共有するとともに数行で事例を投稿できるよう工夫したイントラアイフィスでは、平成 22 年度末（平成 22 年 3 月 26 日時点）までに 1,713 事例が収集され、これまでのアイフィスへの投稿頻度と比較すると約 10 倍と非常に多い。これらの事例の中から詳細に解析する事例をピックアップし、イントラアイフィス内で公開 3 ヶ月経過後、新規パターン事例についてはアイフィスの研修事例として活用する体制を整えた。一方、アイレドシス、みんくすにおける情報提供素材はこれまで、長年にわたりアイフィスやアイメディスに蓄積されてきた事例を、目的に合わせて事例ライブラリから抽出できるような連携体制を確立することができた。

#### (2)実装された成果の今後の自立的継続性

(1) で述べたように、本実装支援期間中、会員獲得と財政基盤の確立という実装の自立的継続の可否を左右する目標を十分に達成した。既に、実装支援期間終了後も、現時点で展開している薬剤師向けシステム（アイフィス）、医師向けシステム（アイメディス）および育薬セミナー・認定薬剤師部門の事業は規模を縮小することなく継続すること、さらに実装事業にあたるスタッフも現状を維持していくことを決定している。また、さらなる事業発展のために、新しいチャネルを使用しての広報活動や新人薬剤師等の積極的加入のためのしくみ、法人会員の拡大等により一層力をいれていく。

#### (3)実装活動の他地域への普及可能性

本実装活動の中心となっている薬剤師向けシステム（アイフィス）と医師向けシステム（アイメディス）はインターネットを介したコミュニティサイトであり、本システムを介した医薬品情報の発信は全国の薬剤師、医師を通じて各地域における医療の適正化に寄与するものと考えられる。とりわけ、アイフィスの登録薬剤師数（1,4162 名、H22.3.26 時点）は全国の薬局・医療施設に勤務する薬剤師（186,052 名、H20.12.31 データ）の 7.6%（地域別比率：北海道 6.5%、東北 6.1%、関東 7.2%、近畿 7.5%、中部 5.9%、中国四国 6.0%、九州沖縄 9.8%）に達しており、本システムの全国的な普及可能性は十分あるといえる。また、本実装支援期間中に育成した在宅サポーターは各地域におけるプリセプターとして、日々の薬剤業務においてはミスの少ない医療の実現に寄与することを期待している。医師向けシステムも最終目標に向けて会員数を増加させ、全国各地における本実装活動の普及に努めていきたい。

#### (4)実装活動の社会的副次成果

本実装活動の直接の対象は医師、歯科医師及び薬剤師であるが、本実装活動を通じて、全国の登録薬剤師、医師が各地域における投薬ミスの回避や医療の適正化に寄与していると

考えられる。医薬品の不適正使用や投薬ミスをなくし、医薬品がより適正に使用される医療環境を実現することを介して患者への安全な医療の提供につながる（＝社会的副次成果）と期待される。更に、我々の構築したシステムによって明らかとなった既存の医薬品の問題点・改良点などを積極的に製薬企業へ提案することによって、より安全で使用勝手の良い医薬品へと進化させることが可能となる。

#### (5)人材育成

本実装活動では、医師、歯科医師及び薬剤師への定期的な情報提供と医療従事者間の情報共有を実現した。アイフィスおよびアイメディスを介した情報提供は週 1 回実施した。また、薬剤師研修セミナーの ADVANCE コースは通年開講（月 2 回）であり、会場型に加えて、e-learning のプログラムも開講した（＜V 理解普及のための活動とその評価＞の項参照）。さらに、若手の育成に有効な BASIC セミナー（全 12 回からなるプログラム）の受講者は実装期間中 800 名超に達した。これらの活動は、医療従事者の育成に大いに役立ったと考えられる

#### (6)実装活動で遭遇した問題とその解決策

本プロジェクトは、当初の全体計画から大きな計画変更なく進行し、問題点は特になかった。全体計画の計画修正は主に、実装期間中にうまれた新たな目標（実装活動サポーターの養成、新規薬剤師研修セミナーの主催、新規システムの開発協力・活用）の実現のために追加したものであり、いずれも開始時点での目標を達成することができた。

### IV 実装活動の組織体制

#### (1)体制

当センターは、東京大学大学院薬学系研究科の教員有志により、医薬・食品に関する情報収集・調査・解析、社会還元と、それらを推進する人材を育成することを目的に 2006 年に設立された。活動面においては、東京大学大学院薬学系研究科との強固な連携のもとで、医薬・食品情報に関する社会貢献をすすめている。特に、薬剤師の卒後教育に関しては、薬剤師認定制度認証機構から本邦で唯一、特定領域薬剤師認定制度のプロバイダとして認証を受け、「育薬セミナー・認定薬剤師部門」が中心となって、育薬セミナーをはじめとする教育活動を展開している。そして、当法人の中でも、薬剤師間情報交換・研修システム（アイフィス）は、上述の薬剤師卒後教育と並ぶ二本柱の一つとして、最重要事業に位置づけており、アイフィス・アイメディス部門がその運用を担当している。本実装事業においても、アイフィス・アイメディス部門が実装組織として、実装責任者の澤田康文のもとで実装事業を展開した。

実装期間終了時の実装組織の概略を以下に図示する。当初の組織との変更点は、実装活動の円滑化を図るため、堀がサポートメンバーから実装組織メンバーへ変更となり、実装担当と事務責任者を大谷と分担したこと（H21 年度）、事例解析、事例ライブラリ構築体制のさらなる充実のため実装担当者として浅島を増員したことである（H22 年度）。

事業補助者である三木、佐藤は、平成 22 年度に新規展開を計画している研修プログラム（育

薬セミナー・BASIC)の特任スタッフ(文科省委託事業)を担当していた実績があり、実装事業の円滑な展開に大きく寄与した。

理事・実装担当堀里子特任スタッフ三木晶子佐藤宏樹特定非営利活動法人医薬品ライフタイムマネジメントセンター理事長海老塚豊理事会理事・センター長澤田康文理事・事務責任者大谷壽一非常勤研究員・実装担当浅島朋子非常勤薬剤師・実装担当末平真由事務員横山祥子実装責任者育薬セミナー・認定薬剤師部門実装組織メンバー：6名（実装責任者+担当者3名+事務責任者1名+事務員1名）認定制度実行委員会アイフィス・アイメディス部門東京大学大学院薬学系研究科医薬品情報学講座スタッフ（H19・H21 文部科学省委託事業「平成19年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（大学・NPO連携による子育て等での離退職薬剤師のための職場復帰・再教育プログラム）」特任スタッフ）サポート実装担当と事務責任者を大谷と分担することで実装活動の円滑化を図るため、サポートメンバーから実装組織メンバーへ変更（H21年度）。事例解析、事例ライブラリ構築体制のさらなる充実のため増員（H22年度）。

#### V 理解普及のための活動とその評価

##### (1)展示会への出展等

年月日

名称

場所

概要

ステーク

ホルダー

社会的インパクト

2009年

10月10,11日

第42回 日本薬剤師会学術大会

神戸

育薬セミナー・アイフィスの紹介他

薬剤師

薬剤師関連団体等

ブース来場者数：約 500名

（学術大会参加者数：約 10,000名）

##### (2)研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日

名称

場所

概要

ステーキ

ホルダー

社会的インパクト

2008 年

4 月 10 日

2008 年度

育薬セミナー・ADVANCE 第 1 回

東京

福岡

唐津

(テレビ会議システムで 3 会場接続)

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師、

製薬企業

東京：80 名

福岡：114 名

唐津：60 名

(申込者)

2008 年

4 月 17 日

2008 年度

育薬セミナー・ADVANCE 第 2 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

5 月 8 日

2008 年度

育薬セミナー・ADVANCE 第 3 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

5 月 15 日

2008 年度

育薬セミナー・ADVANCE 第 4 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

6 月 12 日

2008 年度

育薬セミナー・ADVANCE 第 5 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

6 月 26 日

2008 年度

育薬セミナー・ADVANCE 第 6 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

7 月 13 日

第 3 回ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会

同上

公募等で全国から収集されたヒヤリハット事例を薬剤師が NPO スタッフとともに解析し、  
当日会場で発表・参加者間での意見交換を行う研究会

薬剤師、

製薬企業

東京：46 名

福岡：80 名

唐津：46 名

2008 年

7 月 18 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 9 回

同上

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師、

製薬企業

東京：80 名

福岡：114 名

唐津：60 名

(申込者)

2008 年

9 月 4 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE

同上

同上

同上

同上

23

第 10 回

2008 年

9 月 11 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 11 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

9 月 25 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 12 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

10 月 9 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 13 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

10 月 16 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 14 回

同上

同上

同上

同上

2008 年

10 月 18 日

育薬セミナー・BASIC スクーリング (2008 年度 第 1 回)

東京

医薬品情報をどのように収集・評価し、さらに調剤、疑義照会、患者ケアにどのように活かすのかを研修

薬剤師

113 名

2008 年

11 月 13 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 15 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師、

製薬企業

東京：80 名

福岡：114 名

唐津：60 名

(申込者)

2008 年

11 月 20 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 16 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2008 年

12 月 4 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 17 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2008 年

12 月 11 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 18 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

1 月 8 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 19 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

1 月 15 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 20 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

2 月 12 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 21 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

2 月 19 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 22 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

3 月 9 日

育薬セミナー・BASIC スクーリング (2008 年度 第 2 回)

東京

医薬品情報をどのように収集・評価し、さらに調剤、疑義照会、患者ケアにどのように活かすのかを研修

薬剤師

91 名

2009 年

3 月 12 日

2008 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 23 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナル

薬剤師、

製薬企業

東京：80名

福岡：114名

唐津：60名

(申込者)

24

コンテンツを題材とした研修セミナー

2009年

3月19日

2008年度 育薬セミナー・ADVANCE 第24回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009年

4月9日

2009年度 育薬セミナー・ADVANCE 第1回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテ

ンツを題材とした研修セミナー

薬剤師、

製薬企業

東京：81名

福岡：114名

唐津：50名

(申込者)

2009年

4月16日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 2 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

5 月 7 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 3 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

5 月 28 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 4 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

6 月 11 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 5 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

6 月 18 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 6 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

7 月 9 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 7 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

7 月 16 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 8 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

7 月 26 日

第 4 回ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会

東京

福岡

唐津

公募等で全国から収集されたヒヤリハット事例を薬剤師が NPO スタッフとともに解析し、  
当日会場で発表・参加者間での意見交換を行う研究会

同上

東京：85 名

福岡：61 名

唐津：19 名

2009 年

9 月 10 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 11 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師、

製薬企業

東京：81 名

福岡：114 名

唐津：50 名

(申込者)

2009 年

9 月 17 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 12 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

10 月 8 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 13 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

10 月 15 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 14 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

25

2009 年

10 月 17 日

育薬セミナー・BASIC スクーリング (2009 年度 第 1 回)

東京

医薬品情報をどのように収集・評価し、さらに調剤、疑義照会、患者ケアにどのように活かすのかを研修

薬剤師

41 名

2009 年

11 月 12 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 15 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師

製薬企業

東京：64 名

福岡：114 名

唐津：39 名

(申込者)

2009 年

11 月 19 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 16 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

12 月 10 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 17 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2009 年

12 月 17 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 18 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

1 月 7 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 19 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

1 月 14 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 20 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

2 月 4 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 21 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

2 月 18 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 22 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

3 月 6 日

育薬セミナー・BASIC スクーリング (2009 年度 第 2 回)

東京

医薬品情報をどのように収集・評価し、さらに調剤、疑義照会、患者ケアにどのように活かすのかを研修

薬剤師

34 名

2010 年

3 月 11 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 23 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師

製薬企業

東京：64 名

福岡：114 名

唐津：39 名

(申込者)

2010 年

3 月 18 日

2009 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 24 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

4 月 8 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 1 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師

製薬企業

東京：64 名

福岡：114 名

唐津：39 名

(申込者)

2010 年

4 月 15 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE

東京

福岡

同上

同上

同上

26

第 2 回

唐津

2010 年

5 月 13 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 3 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

5 月 20 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 4 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

6 月 10 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 5 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

6 月 17 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 6 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

7 月 8 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 7 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

7 月 15 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 8 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

8 月 1 日

第 5 回ヒヤリハット事例に学ぶ「薬剤業務リスクマネジメント」研究会

東京

福岡

唐津

公募等で全国から収集されたヒヤリハット事例を薬剤師が NPO スタッフとともに解析し、  
当日会場で発表・参加者間での意見交換を行う研究会

薬剤師

製薬企業

東京：40 名

福岡：92 名

唐津：17 名

2010 年

9 月 2 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 11 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師

製薬企業

東京：64 名

福岡：114 名

唐津：39 名

(申込者)

2010 年

9 月 16 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 12 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

10 月 14 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 13 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

10 月 21 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 14 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

10 月 24 日

育薬セミナー・BASIC スクーリング (2010 年度 第 1 回)

東京

医薬品情報をどのように収集・評価し、さらに調剤、疑義照会、患者ケアにどのように活かすのかを研修

薬剤師

17 名

2010 年

10 月 24 日

第 1 回 医薬品情報リテラシー研修セミナー

東京

医薬品情報リテラシーを身につけるための少人数演習形式研修

薬剤師

12 名

2010 年

11 月 11 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 15 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナル

薬剤師

製薬企業

東京：64 名

福岡：114 名

唐津：39 名

(申込者)

27

コンテンツを題材とした研修セミナー

2010 年

11 月 18 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 16 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

12 月 9 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 17 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2010 年

12 月 16 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 18 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2011 年

1 月 13 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 19 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2011 年

1 月 20 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 20 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2011 年

2 月 10 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 21 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2011 年

2 月 17 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 22 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

2011 年

2 月 20 日

第 2 回 医薬品情報リテラシー研修セミナー

東京

医薬品情報リテラシーを身につけるためのワークショップ形式の研修

薬剤師

11 名

2011 年

2 月 27 日

育薬セミナー・BASIC スクリーニング (2010 年度 第 2 回)

東京

医薬品情報をどのように収集・評価し、さらに調剤、疑義照会、患者ケアにどのように活かすのかを研修

薬剤師

11 名

2011 年

3 月 10 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 23 回

東京

福岡

唐津

ヒヤリハット事例、新薬や頻用医薬品の徹底解析をはじめとする多彩なオリジナルコンテンツを題材とした研修セミナー

薬剤師

製薬企業

東京：64 名

福岡：114 名

唐津：39 名

(申込者)

2011 年

3 月 17 日

2010 年度 育薬セミナー・ADVANCE 第 24 回

東京

福岡

唐津

同上

同上

同上

資料 11 に育薬セミナー・BASIC スクリーニング、医薬品情報リテラシー研修セミナーの風景を示す。

28

(3)新聞報道、TV 放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

雑誌掲載

・堀 里子, 三木 晶子, 佐藤 宏樹, 澤田 康文. 育薬セミナー—臨床事例や最新の医薬品情報にもとづくオリジナル教材で学ぶ全国薬剤師研修プログラム. *Credentials*. 21: 42-43 (2010)

・玉木 啓文, 堀 里子, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, 大谷 嘉一, 澤田 康文. 類似薬名による医薬

品取り違い事故防止の試み. 日本病院薬剤師会雑誌. 46(6): 765-769 (2010)

書籍掲載

医薬品ライフタイムマネジメントセンター. 薬剤師生涯研修関連機関の概要. 薬剤師生涯研修ガイド ―プロフェッショナル薬剤師になろう―: 218-220 (2008)

書籍出版

澤田康文 監修, NPO 法人医薬品ライフタイムマネジメントセンター 編. 「薬剤師のための徹底リスクマネジメント 2」, 246p, 南山堂 (2008.09)

(4)論文発表 (国内誌 9 件、国際誌 4 件)

以下の発表は、実装責任者・担当者らが、その本務先であり、当法人の連携先である東京大学の研究グループとして発表した内容も含む。本活動の成果と関わりが深い論文を示す。

原著論文

1. Tsuda A, Fujiyama J, Miki A, Hori S, Ohtani H, Sawada Y. The first case of phenytoin intoxication associated with the concomitant use of phenytoin and TS-1, a combination preparation of tegafur, gimeracil, and oteracil potassium. *Cancer Chemother Pharmacol.* 62(3): 427-432 (2008)

2. 松尾律子, 田中祥子, 加納美知子, 磯野喜美子, 田中泰羽, 田浦智子, 浅田由貴, 赤嶺有希子, 沢井一, 木下正和, 須藤智美, 久野木良子, 三木晶子, 堀里子, 佐藤宏樹, 大谷壽一, 澤田康文. クラリスロマイシンドライシロップと各種カルボシステイン製剤併用時の苦味強度における先発医薬品と後発医薬品間の違い. *薬学雑誌* 128(3): 479-485 (2008)

3. 齊田翌美, 井上綾子, 石橋久, 富永宏治, 堀里子, 三木晶子, 大谷壽一, 小野信昭, 澤田康文. 患者を対象としたケトプロフェンテープの使用感に関する製剤間比較調査. *薬学雑誌* 128(5): 795-803 (2008)

4. 朝比奈泰子, 本間秀彰, 堀里子, 大谷壽一, 三木晶子, 後藤輝明, 河野弘之, 澤田康文. 青汁をはじめとする健康食品の使用実態・意識調査. *医療薬学* 34(7): 644-650 (2008)

5. 朝比奈 泰子, 堀 里子, 大谷 壽一, 澤田 康文. 医療従事者を対象として定期的に健康食品情報を提供するインターネット研修システムの構築とその評価. *薬学雑誌*. 129(6): 773-780 (2009)

6. 朝比奈 泰子, 堀 里子, 大谷 壽一, 澤田 康文. 患者の健康食品使用に関する薬剤師の行動実態調査. *医療薬学*. 35(10): 685-692 (2009)

7. Nakajima M, Genda T, Suehira M, Satoh H, Miki A, Hori S, Sawada Y. Increased anticoagulant activity of warfarin used in combination with doxifluridine. *Cancer*

29

*Chemother Pharmacol.* 66(5):969-972, 2010

8. 朝比奈 泰子, 堀 里子, 澤田 康文. インターネットを用いた医療従事者からの健康食品関連情報の収集と共有. *薬学雑誌*. 130(1): 131-139 (2010)

9. 朝比奈 泰子, 堀 里子, 澤田 康文. カリウムの摂取制限を受けている患者でのグルコサ

ミン硫酸塩使用の安全性. 薬学雑誌. 130(2): 271-275 (2010)

10. 田中 秀和, 藤澤 哲也, 平山 匡彦, 若林 進, 宮崎 長一郎, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, 堀里子, 澤田 康文. インターネットでの一般用医薬品購入に関する離島住民の意識調査. 医療薬学, 36(3):150-156, 2010
11. 朝比奈 泰子, 堀 里子, 澤田 康文. 「健康食品」の意味と安全性についての患者、医師、薬剤師の認識. 薬学雑誌, 130(7):961-969, 2010 [abstract]
12. Toi A, Ohtani H, Tsujimoto M and Sawada Y. Pharmacokinetic modeling of the dosing interval dependency of the interaction between itraconazole and triazolam. *Int. J. Clin Pharm and Ther.* 48(6):356-366, 2010
13. Miki A, Ohtani H, Sawada Y. Warfarin and miconazole oral gel interactions : analysis and therapy recommendations based on clinical data and a pharmacokinetic model. *J Clin Pharm Ther.* 2010 Dec 8. doi: 10.1111/j.1365-2710.2010.01229.x.

(5)WEB サイトによる情報公開

1. NPO 法人医薬品ライフタイムマネジメントセンター :  
<http://www.dlmc.jp/>
2. 薬剤師間情報交換・研修システム (アイフィス) (会員限定) :  
<http://www.iphiss.jp/>
3. 医師のための薬の時間 (アイメディス) (会員限定) :  
<http://www.iphiss.jp/dr/>

(6)口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

- ①招待講演 (国内会議 65 件、国際会議 0 件)
- ②口頭講演 (国内会議 21 件、国際会議 0 件)
- ③ポスター発表 (国内会議 3 件、国際会議 0 件)

以下の発表は、実装責任者・担当者が、その本務先であり、当法人の連携先である東京大学の研究グループとして発表した内容も含む。

①招待講演

2008 年、澤田康文 (一部抜粋)

1. 鳥栖・三養基薬剤師会勉強会、佐賀 (1 月 22 日)
2. 第 15 回神奈川薬物相互作用研究会、神奈川 (1 月 28 日)
3. 福島県薬剤師会、学術講演会、福島 (1 月 30 日)
4. 八千代市薬剤師会勉強会、千葉 (2 月 20 日)
5. 横浜市薬剤師会北部ブロック講演会、神奈川 (2 月 28 日)

30

6. 薬剤師臨床セミナー学術講演、北海道 (3 月 10 日)
7. 東京都薬剤師会多摩第 2 地区研修会、東京 (3 月 23 日)
8. 第 11 回宮城県薬剤師会分業対策部門研修会、宮城 (3 月 25 日)

9. 第 90 回北摂地域薬剤師交流研修会、大阪 (4 月 12 日)
10. 機能的食品の安全性シンポジウム、東京 (4 月 21 日)
11. 沖縄県薬剤師会学術講演会、沖縄 (5 月 25 日)
12. 兵庫県保険医協会薬科部研究会、兵庫 (5 月 31 日)
13. 栃木県薬剤師会、栃木県病院薬剤師会学術講演会、栃木 (6 月 5 日)
14. 川口・鳩ヶ谷女子薬剤師の会研修会、埼玉 (6 月 8 日)
15. 京都府薬剤師会研修会、京都 (6 月 15 日)
16. 小倉薬剤師会学術講演会、福岡 (6 月 17 日)
17. 静岡県病院薬剤師会西部支部例会、静岡 (6 月 19 日)
18. 高槻市薬剤師会学術講演会、大阪 (6 月 21 日)
19. 兵庫県病院薬剤師会東西支部合同学術講演会、兵庫 (7 月 10 日)
20. 横須賀市薬剤師会学術講演会、神奈川 (7 月 15 日)
21. 神戸薬科大学エクステンションセンター第 34 回卒後教育講座、兵庫 (8 月 31 日)
22. 薬学友の会学術講演会、北海道 (9 月 19 日)
23. 山形県薬剤師会ステップアップ研修会、山形 (9 月 21 日)
24. 沖縄県中部地区薬剤師会学術講演会、沖縄 (9 月 30 日)
25. 第 136 回岩手県病院薬剤師会定例学習会、岩手 (10 月 3 日)
26. 第 41 回日本薬剤師会学術大会特別講演会、宮崎 (10 月 12 日)
27. 上田薬剤師会特別講演会、長野 (10 月 22 日)
28. 医療安全対策講演会、栃木 (11 月 26 日)
29. 佐賀県薬剤師会研修会、佐賀 (11 月 29 日)
30. 第 2 回 日本腎と薬剤研究会学術集会、熊本 (12 月 6 日)
31. 第 41 回東海薬剤師学術大会、愛知 (12 月 7 日)

2008 年、堀里子

1. 堀 里子. 薬物治療に関するインシデント・アクシデント事例ライブラリの構築とその活用. 第 15 回ヘルスリサーチフォーラム、東京 (11 月 15 日)

2009 年、澤田康文 (一部抜粋)

1. ジェネリック医薬品の情報充実のための教育研修セミナー、東京 (1 月 23 日)
2. 中京東部医師会学術講演会、中京東部医師会生涯教育講座、京都 (1 月 29 日)
3. 尾道市立市民病院学術講演会、広島 (2 月 25 日)
4. 小田原薬剤師会リスクマネジメント研修会、神奈川 (3 月 25 日)
5. 長崎県薬剤師会、平成 20 年度第 2 回研修協議会研修会、長崎 (3 月 29 日)
6. 石川県病院薬剤師会学術講演会、石川 (5 月 9 日)
7. 第 6 回 DI コミュニケーションの会、東京 (6 月 3 日)
8. 日本製薬情報協議会 2009 年度通常総会、東京 (6 月 12 日)
9. 第 4 回山形県薬剤師会ステップアップ研修会、山形 (6 月 21 日)

10. 第 3 回奈良県薬剤師セミナー、奈良（6 月 25 日）
11. 第 24 回秋田県臨床薬学研究会、秋田（7 月 3 日）
12. 基幹病院部：DPC 病院担当会議・学術勉強会、東京（7 月 30 日）
13. 日本薬学会第 4 回記者説明会、東京（8 月 10 日）

31

14. 第 5 回山形県薬剤師会ステップアップ研修会、山形（9 月 13 日）
15. 第 323 回大分市小児科医学会学術講演会、大分（9 月 16 日）
16. 久留米三井薬剤師会学術講演会、福岡（10 月 21 日）
17. 第 12 回「東京・腎と薬剤研究会」講演会、東京（11 月 4 日）
18. 佐賀県薬剤師会生涯学習研修会、佐賀（11 月 28 日）

2010 年、澤田康文（一部抜粋）

1. 平成 22 年 1 月 23 日（土）

公益社団法人 日本薬学会：近畿支部大会

市民公開講座：薬を五感でどう捉える？

2. 平成 22 年 1 月 25 日（月）

財団法人 日本抗生物質学術協議会：第 604 回特別会員会合

特別講義：薬物相互作用のファーマコキネティクス・ファーマコダイナミクス解析の基礎、  
－抗菌剤・抗真菌剤・抗鬱剤・抗不整脈剤・抗癌剤・抗炎症剤などを例にして－

3. 平成 22 年 2 月 14 日（日）

社団法人 東京都薬剤師会：平成 21 年度調剤実務研修会

特別講演：「処方せんチェックと育薬」

4. 平成 22 年 3 月 1 日（月）

茨城県保健福祉部薬務課：後発医薬品の安心使用促進講演会

特別講演：後発医薬品の安心安全な使用促進

5. 平成 22 年 3 月 29 日

公益社団法人 日本薬学会：第 130 年会シンポジウム（健康・医薬品情報を医療現場に活かす）

講演：医薬品情報の立場から

6. 平成 22 年 6 月 5 日（土）

社団法人 長崎県薬剤師会：薬学講習会

特別講演：ヒヤリハット事例に学ぶ実際の事例を用いて分析し対策を考える

7. 平成 22 年 7 月 10 日

一般社団法人 日本医療薬学会：医療薬学フォーラム 2010、第 18 回クリニカルファーマシーシンポジウムシンポジウム 2

基調講演：ドライな研究が必要な訳、－病院・地域薬局、薬学部との連携を図ることの必要性－

8. 平成 22 年 9 月 11 日 (土)

社団法人 薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会：平成 22 年度兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会共催研修会、ヒヤリハット事例に学ぶ医薬品の安全管理

特別講演：医薬品と医療消費者間のインターフェースとしての薬剤師像

9. 平成 22 年 10 月 23 日 (土)

大分県病院薬剤師会：薬と健康のつどい 2010

特別講義：薬を五感でどう捉える？

10. 平成 22 年 10 月 30 日 (土)

社団法人 長崎県薬剤師会：薬学講習会

特別講演：薬の飲み合わせ、何が起ころ？ 何故起ころ？、どう回避する？ どう知る？

11. 平成 23 年 1 月 22 日 (土)

社団法人 大阪府薬剤師会：平成 22 年度調剤事故防止研修会

32

特別講演：ヒヤリハット事例に学ぶ服薬指導のリスクマネジメント

12. 平成 23 年 1 月 26 日

社団法人 東京医薬品工業協会：第 199 回教育研修講習会

特別講演：MR と医薬品ライフタイムマネジメント

13. 平成 23 年 3 月 3 日

社団法人 東京都病院薬剤師会：中小病院部薬薬連携研究会、- がん化学療法における安全管理と薬薬連携 -

特別講演：抗癌剤適正使用のための手作り薬薬連携

14. 平成 23 年 3 月 20 日

社団法人 滋賀県薬剤師会：女性の健康週間、スキルアップ学術研修会

特別講義：服薬指導のリスクマネージメント」

15. 平成 23 年 3 月 27 日

公益社団法人 日本薬学会：第 131 年会(静岡)

薬学市民講演会：安心安全な医薬品使用、- 薬の達人を目指せ！ -

②口頭講演

1. 朝比奈泰子, 堀 里子, 三木晶子, 大谷壽一, 澤田康文, 健康食品の適正使用推進のための情報収集・提供システムの構築, 日本薬学会第 129 年会 (2009 年 3 月、京都)

2. 堀 里子, 朝比奈 泰子, 三木 晶子, 澤田 康文. 医師・薬剤師向け健康食品情報交換・研修システムの構築. 第 12 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (福岡、2009 年 7 月) 講演要旨集. p.93

3. 湯本 千佳, 堀 里子, 三木 晶子, 大谷 壽一, 澤田 康文. 服薬に関するトラブル事例発生 の規格化とその背後要因分類. 第 12 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (福岡、2009 年 7 月) 講演要旨集. p.109

4. 朝比奈 泰子, 堀 里子, 澤田 康文, 健康食品についての薬剤師－患者間コミュニケーションに対する薬剤師の意識と課題. 第 8 回科学技術社会論学会年次研究大会・総会 (東京, 2009 年 11 月) 講演要旨集. p.50-53
5. 堀 里子, 澤田 康文, 医師、薬剤師は医薬品使用に関するテレビ番組をどう捉えるか?. 第 8 回科学技術社会論学会年次研究大会・総会 (東京, 2009 年 11 月) 講演要旨集. p.55-56
6. 長岡 佐知, 加留部 信介, 石橋 久, 吉川 学, 福岡 英樹, 高木 淳一, 小野 信昭, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, 堀 里子, 澤田 康文, 複数医薬品 (ティーエスワンとエクセラゼ) による流涙の副作用が疑われた症例. 第 71 回九州山口薬学大会 (大分, 2009 年 11 月) 講演要旨集. p.192
7. 三木 晶子, 森川 諭, 佐藤 宏樹, 堀 里子, 澤田 康文, 登録販売者の研修・情報収集および業務の実態調査とインターネットによる登録販売者間情報交換・研修システムの構築. 第 13 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (静岡, 2010 年 7 月) 講演要旨集. p.72
8. 若林 進, 澤田 康文, インターネットオークションによる非ステロイド性消炎鎮痛貼付剤出品の現状調査. 第 13 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (静岡, 2010 年 7 月) 講演要旨集. p.73
9. 澤田 康文, 山内 善行, 堀 里子, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, テレビ番組は医師, 薬剤師と一般生活者の医薬品使用意識にどのような影響を及ぼすか? 第 13 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (静岡, 2010 年 7 月) 講演要旨集. p.74
10. 栗本 露, 堀 里子, 佐藤 宏樹, 澤田 康文, 透析患者を対象とした医薬品の服用感や  
33  
使い勝手に関する実態調査. 第 13 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (静岡, 2010 年 7 月) 講演要旨集. p.86
11. 玉木 啓文, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, 堀 里子, 澤田 康文, PTP シートの外観が類似した医薬品とその類似要素に関する解析. 第 13 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (静岡, 2010 年 7 月) 講演要旨集. p.104
12. 高田 智成, 佐藤 宏樹, 三浦 康正, 石河 利恒, 原 範恵, 小島 孝一, 高橋 一之, 藤原 真理子, 三木 晶子, 堀 里子, 澤田 康文, 薬局間でのインシデント事例の収集・共有を目的としたウェブベースシステムの構築と試験運用. 第 13 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (静岡, 2010 年 7 月) 講演要旨集. p.109
13. 堀 里子, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, 澤田 康文, 薬剤師が見たジェネリック医薬品の市販後情報収集・伝達の実態とその課題. 第 20 回日本医療薬学会年会 (千葉, 2010 年 11 月) 講演要旨集. p.263
14. 木下 正和, 田中 祥子, 加納 美知子, 澤井 一, 松尾 律子, 赤嶺 有希子, 三木 晶子, 佐藤 宏樹, 堀 里子, 澤田 康文, 「薬の数が違う!」、「薬が入っていない!」などの患者クレーム対策にデジタルカメラが有用. 第 20 回日本医療薬学会年会 (千葉, 2010 年 11

月) 講演要旨集. p.269

15. 玉木 啓文, 堀 里子, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, 土居 由有子, 澤田 康文, 薬局における包装・製剤変更情報の入手に関するアンケート調査. 第 20 回日本医療薬学会年会 (千葉, 2010 年 11 月) 講演要旨集. p.276

16. 平山 匡彦, 田中 秀和, 大村 平自, 永瀬 正義, 作元 誠司, 菅原 正典, 北原 敏弘, 宮崎 長一郎, 山下 登, 吉谷 清光, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, 堀 里子, 澤田 康文, 離島住民は医薬品のネット販売を必要としているか? 第 20 回日本医療薬学会年会 (千葉, 2010 年 11 月) 講演要旨集. p.276

17. 野中 琢哉, 芳川 圭治, 三木 晶子, 堀 里子, 佐藤 宏樹, 土居 由有子, 澤田 康文, 疑義照会事例から見えてくる患者・薬剤師・医師間コミュニケーションの問題. 第 20 回日本医療薬学会年会 (千葉, 2010 年 11 月) 講演要旨集. p.288

18. 若林 進, 三木 晶子, 佐藤 宏樹, 松岡 沙代, 堀 里子, 澤田 康文, 薬剤師から見た「非ステロイド性消炎鎮痛剤 (NSAIDS) 貼付剤の処方・使用実態」. 第 20 回日本医療薬学会年会 (千葉, 2010 年 11 月) 講演要旨集. p.308

19. 池西 政幸, 宮崎 翔平, 佐藤 宏樹, 林口 剛泰, 佐野 雅俊, 上田 睦明, 樽野 陽亮, 大鳥 徹, 三木 晶子, 堀 里子, 松山 賢治, 中塚 英太郎, 澤田 康文, カペシタビン投与によりフェニトイン濃度が上昇した一症例の薬物動態学的モデル解析. 日本薬学会第 131 年会 (静岡, 2011 年 3 月) 講演要旨集. p.175

20. 三木 晶子, 松岡 紗代, 佐藤 宏樹, 堀 里子, 澤田 康文, 医師を対象にした NSAIDs 貼付剤の処方実態に関する調査. 日本薬学会第 131 年会 (静岡, 2011 年 3 月) 講演要旨集. p.176

21. 泉 太郎, 堀 里子, 佐藤 宏樹, 三木 晶子, 澤田 康文, ツロブテロールテープ先発医薬品・後発医薬品間の切り替えに伴う治療効果, 使用勝手の変化に関する調査. 日本薬学会第 131 年会 (静岡, 2011 年 3 月) 講演要旨集. p.195

### ③ポスター発表

1. 湯本千佳, 堀 里子, 三木晶子, 大谷壽一, 澤田康文, 服薬に関するヒヤリハット事例の体系的分析とデータベースの構築, 日本薬学会第 129 年会 (2009 年 3 月、京都)

2. 宮崎 翔平, 佐藤 宏樹, 田中 真吾, 玉木 啓文, 堀 里子, 澤田 康文, カペシタビン併用時のワルファリンの薬物動態・薬力学的モデル解析. 第 19 回日本医療薬学会年会 (長崎, 2009 年 10 月) 講演要旨集. p.402

34

3. 佐藤 宏樹, 前島 光廣, 大鳥 雅子, 三木 晶子, 堀 里子, 中島 勝, 澤田 康文, 5-フルオロウラシル (5-FU) 肝動注療法、XELOX 療法或いは FOLFOX6 療法時の血中フェニトイン (PHT) 濃度の変動. 日本薬学会第 131 年会 (静岡, 2011 年 3 月) 講演要旨集. p.279

(7)特許出願

①国内出願（0件）

②海外出願（0件）

(8)その他特記事項

特にありません。

## VI 結び

本プロジェクトでは主に以下の項目に関する実装活動を実施した。

会員獲得：

平成 22 年度末（平成 23 年 3 月 26 日現在）の薬剤師向けシステム『アイフィス』への登録者数の登録者数は 14,162 名（実装期間中 約 5,000 名増）（達成率 94.4%＜目標 15,000 名＞）、医師向けシステム『アイメディス』の登録者数は 5,845 名（実装期間中 約 4,000 名増）（達成率 97.4%＜目標 6,000 名＞）であり、アイフィス、アイメディスともに到達点目標をほぼ達成している。研修会・講演会を通じての継続的な広報活動やウェブ広告等の導入が功を奏したと評価できる。

財政基盤の確立・評価：

平成 22 年度末（平成 23 年 3 月 26 日現在）における薬剤師の有料会員数（プレミアム A, B, C 会員、法人会員、2010 年度育薬セミナー BASIC 入会者）は 632 名であり、到達点目標（600 名）を超えて達成した。一方、平成 22 年度における法人会員数はのべ 6 社であり、15 社の目標には達しなかった。今後引き続き、会員企業の拡大に努めていく必要があるが、平成 20 年度の時点で財政基盤評価にもとづき法人会費の改定を行っており、実装終了時点での有料会員（薬剤師、法人）からの会費収入額は目標に達した。本実装支援期間の最重要課題である、当システムのみで経済的に独立に運営できる体制を確立するという目標は十分達成されたと評価される。

各種有料サービスの導入・評価：

平成 20 年度に、健康食品に関する情報提供体制の構築、有料サービスの提供、評価を行い、実装期間中の健康食品情報提供の有料サービス利用者は 183 名と良

35

好であった。なお、医師・歯科医師を対象とした有料情報サービスは検討の結果、会員数が少なくとも 10,000 名に達するのを目処に当面見送ることとした。平成 21 年度には、当初の計画には盛り込まれていなかった新規サービスとして、医薬品名の類似度を計算するための WEB アプリケーションのニーズを探るとともに、そのプロトタイプを WEB 上で提供した。実装期間終了後に、これらの有料サービスを実施していくためには、人件費とコンテンツ解析・作成費を再検討し、自立的継続の可能性を探る必要がある。臨床事例ライブラリの構築：実装期間中、長期にわたって事例ライブラリの設計と構築を行った。より多くの事例を収集し事例ライブラリを充実させるために、事例ライブラリに格納する臨床事例の収集対象を薬剤師から、医師・歯科医師に拡大させる、配信した事例に対する会員の意見や類似事例の経験の有無などを投票する機能を設置する等を行った。これらの

取り組みを通じて、インシデント予測システム、医療従事者のための研修教材の創製システムの基盤となる事例ライブラリが確立できたと評価できる。

以上、3年間の実装支援期間において、当初設定したいずれの目標にも十分到達することができた。なかでも、本実装支援期間中、会員獲得と財政基盤の確立という実装の自立的継続の可否を左右する目標を達成できたことの意義は大きい。既に、実装支援期間終了後も、現時点で展開している薬剤師向けシステム（アイフィス）、医師向けシステム（アイメディス）および育薬セミナー・認定薬剤師部門の事業は規模を縮小することなく継続すること、さらに実装事業にあたるスタッフも現状を維持していくことを決定している。今後、さらなる事業発展のために、新しいチャンネルを使用しての広報活動や新人薬剤師等の積極的加入のためのしくみ、法人会員の拡大等により一層力をいれていきたいと考えている。

### 36

#### 資料一覧

資料 1 育薬セミナー・ADVANCE のパンフレット

資料 2 日本薬剤師会学術大会（平成 21 年 10 月）における DLM センターの広報ブース

資料 3 日経 DI オンラインにおける育薬セミナーの WEB 広告

資料 4 アイフィスの健食インフォ・コーナー

資料 5 医薬品名の類似度を計算するための WEB アプリケーション

資料 6 新設した健食インフォ・コーナー内の意見、感想、コメント収集機能

資料 7 新設したアイフィスの趣旨と活用法の案内ページ

資料 8 イントラアイフィス

資料 9 登録販売者間情報交換・研修システム（アイレドシス）

資料 10 みんくす（一般の方への医薬品情報の提供・収集システム）

資料 11 実装活動（研修会）の風景

### 37

資料 1 育薬セミナー・ADVANCE のパンフレット

### 38

資料 2 日本薬剤師会学術大会（平成 21 年 10 月）における DLM センターの広報ブース

### 39

資料 3 日経 DI オンラインにおける育薬セミナーの WEB 広告

育薬セミナー・ADVANCE と育薬セミナー・BASIC を 1 ヶ月おきに交互に宣伝している。

### 40

資料 4 新規開設した健食インフォ・コーナーのトップページ。

医師向けサイト（アイメディス）においても、同様の内容が提供されている。

### 41

資料 5 医薬品名の類似度を計算するための WEB アプリケーション

42

資料 6 新設した健食インフォ・コーナー内の意見、感想、コメント収集機能

43

資料 7 新設したアイフィスの趣旨と活用法の案内ページ

44

資料 8 イントラアイフィス

45

資料 9 登録販売者間情報交換・研修システム（アイレドシス）

46

資料 10 みんなくす（一般の方への医薬品情報の提供・収集システム）

47

資料 11 実装活動（研修会）の風景

第 2 回「育薬セミナー・BASIC」スクーリングの様子（平成 22 年 3 月 7 日）

第 2 回「医薬品情報リテラシー研修セミナー」の様子（平成 23 年 2 月 20 日）